

「研究大学強化促進事業」若手リーダー海外派遣プログラム研究員 制度

研究大学強化促進事業 実施期間2013年度～2022年度

目的

国際社会でリーダーシップを発揮してトップクラスの研究を牽引し、社会を変革するイノベーションの先駆者となるために、東北大学を中核とした“**人が集い、学び、創造する、世界に開かれた知の国際共同体**”の形成を目指す

強化方針Ⅰ 研究戦略の明確化

URA体制を充実、本学研究力を分析し研究戦略を立案支援、ベンチマーク大学選定

Ⅱ 国際共同体の形成

訪問滞在型研究センター「東北大学知のフォーラム」を設置、運営

Ⅲ 将来のグローバル・リーダー育成

「若手リーダー研究者海外派遣プログラム」等の実施

Ⅳ 国際水準キャンパスの整備、事務の国際化

IAC(国際事業推進室)による支援、事務の英語化(OIST研修、日英対訳DB)

コロナ禍においても実質的に国際共同研究を推進する仕組みが必要

若手リーダー海外派遣プログラム研究員 制度

- 対象者 : 本学に所属する若手研究者。
(開始年度4月1日時点で**42歳以下**の者。大学院博士後期課程学生やポストドクター等も含む。)
- 対象機関 : **ベンチマーク校(6機関)・海外連携校(35機関)** (例:ケンブリッジ大学、シカゴ大学、ハーヴァード大学)
- 支援期間 : 6ヵ月～12ヶ月

渡航型

海外研究機関のうち、広義のベンチマーク校に渡航し、国際共同研究を実施することで、国際ネットワーク基盤の構築を目指す。採択者には最大1年間の海外渡航費用(旅費)を支援。

派遣実績 :

2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合計
17	7	5	4	11	12	12	2	70



支援策の拡充

オンライン型(新規)

海外研究グループ(ホスト)内のミーティングに、オンラインにより準スタッフ的な立場で定期的に参加し、国際ネットワーク基盤の構築、国際共同研究実施。

- 海外渡航と同等のキャリアとしての承認
- 国際ネットワーク基盤構築のための活動支援(申請制)

- ・ 短期の渡航旅費
- ・ 招聘旅費
- ・ 国際研究集会等の企画・開催に係る経費
- ・ 国際学会に発表者として参加する場合の参加費
- ・ 渡航型への切替も可



渡航型とオンライン型の融合的活用を通して国際共同研究コミュニティ形成と若手研究者の活躍を促進